
ちっぽけな存在と世界の見せる物語

ナインキューブ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ちっぽけな存在と世界の見せる物語

【Nコード】

N6879Y

【作者名】

ナインキューブ

【あらすじ】

気付いたらここにいた。そうとしか言いようが無い。今、自分は暖かい暗闇でそんなことを思考することぐらいしかすることがない。月と太陽がどれだけ巡ったのかもわからない。やさしい子守り唄のような音色に包まれてまどろみ眠るだけの存在にすぎない。だけど、この揺り籠からもしも出れたらなにをしようか？死んだはずの自分が帰ってきたら家族は驚くだろうか、喜んでくれるだろうか？そういえば自分は本当に死んだのだろうか？ああ、そんなことを考えているうちにまた眠くなってきた…

胎児の追憶（前書き）

初めてのオリジナルなので温かい目をお願いしますー

胎児の追憶

ゆらゆらふわふわぽかぽか

まぶたの開かない俺が感じられることはこれだけだ。ただこの感覚だけが俺という存在が思考していることを確かにしてくれる

そんなことを思い続けてどれほどの時間が過ぎたのかはわからない。最初の数十分はできたがすぐに猛烈な眠気に襲われてそのまま意識が落ちてしまったために、それから数えていない。ドミノを中途半端なところで崩してモチベーションが落ちてしまったとでも考えればいい

そんなふうな時間の概念も曖昧になってしまっただけに俺は闇の中で漂っているが、不思議と退屈に押しつぶされるような感覚に襲われたり、嫌気がさすようなことも無い。むしろずっとこのままでもいい、そんな気分になってくるのだから

そういえばどうして俺はここにいるのだろうか？

この暖かさのなか、久しぶりの感情に思いを馳せるとしよう

俺には死んだ時の記憶がある。と言ってもその瞬間ではなく死ぬんだな、と思ったときまでしか覚えてないのは幸いなのか否かは言うまでもない

事故で死んだのではなく俺が死んだ理由は病気だ

医者の方先生曰く、原因も治療法も不明というものらしい。その後も何か言っていたような気がするが、治らないのなら興味は無かった

し、時間が限られているのなら自分のしたいことがしたかった
それからの一日一日はとても輝いていた。一分一秒が何よりも楽し
かった。ずっとこのままでもいいと思ってしまうほどに

そして俺の意識は妹と「また明日」その言葉を交わしたのを最期に
終わっている

ああ、そんな事を考えているうちに眠くなってきた
本当に今の俺はここにいるのだろうか

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6879y/>

ちっぽけな存在と世界の見せる物語

2011年11月20日20時03分発行